

GIAP Q&A

(よくあるご質問をまとめました)

【スクール関連】

Q1. DJI CAMP、プレスクールで使用する機体は何ですか？

A. 練習及び試験で使用する機体は Phantom4 (DJI 社製) となります。

Q2. DJI CAMP の週末開催は可能ですか？

A. 可能です。DJI CAMP は平日開催が基本ですが、参加者が 5 名以上であれば、週末でも開催可能です。

Q3. オリジナル講習会の開催は可能ですか？

A. 可能です。各種空間情報にまつわる講習会の詳細や、オリジナル講座の開催については随時ご相談ください。※「オリジナル講座とは」・・・日時・人数・内容などをご相談によって設定できます。空間情報に関連した、ご希望のテーマに沿った講座をご提案いたします。

【申し込み・お支払い・UTC 関連】

Q4. 受講料の支払いはいつまでですか？

A. 開催前です。お申込み受領後、「受講料支払いのお願い」の文書をお送りします。開催のおよそ 1 週間前までを目安にお支払い（お振込）ください。

Q5. UTC とはどのような機関ですか？

A. UTC (Unmanned Aerial System Training Center) とは、DJI によって設立されたドローンの産業パイロット教育・訓練機関です。UTC の詳細説明は以下のページをご覧ください。 https://www.uastc.com/jp/utc_profile/

Q6. UTC 申込はいつ行いますか？

A. GIAP への 申込書送付後に、UTC へ新規アカウント登録を実施してください。

Q7. プレスクールでの UTC アカウントの登録はどのように行いますか？

A. 協会のホームページに登録方法の詳細が御座います。参考にしてください。
https://www.giap.or.jp/school_moushikomi.html

Q8. 仮認定証は発行していただけますか？

A. 発行いたします。認定証発行費用お支払いメールが送信された後、仮認定証がメール

に添付されます。認定証が届くまでは、仮認定証をご使用ください。

【機体管理関連】

Q9. 機体に不具合がおきた場合、修理の対応をして頂けますか？

- A. 対応します。まずは機体を GIAP へ送る流れになります。不具合の原因と修理の有無を確認（点検）し御見積りをお送りします。修理が不必要な場合は改善方法のご提案をさせていただきます。まずは事務局（info@giap.or.jp）へご連絡下さい。

GIAP Q&A

(建設 DX 編)

【建設 DX】

Q1. DX とは？

A. **Digital Transformation**（デジタルトランスフォーメーション）の略です。

2004 年にスウェーデン・ウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が提唱した「IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念です。

建設 DX とは、DX を建設業界に取り入れて活用することを指し、計画や設計、施工管理などに DX を取り入れることで、業務の効率化や人手不足解消などを目指しています。

Q2. DX とデジタル化の違いは？

A. デジタル化や DX という用語は様々な意味で使われており、明確な定義で区別されていません。DX は、プロセスを単純にデジタルに置き換えて効率化・自動化・省人化を図ることにとどまらず、既成概念（レガシーシステム）の破壊を伴いながら新たな価値観を創出する変革を指します。

Q3. Society 5.0 と DX の関係は？

A. **Society 5.0** は、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、第 5 段階目の新たな社会のことです。経団連が 2018 年に公表した提言「**Society 5.0**～ともに想像する未来～」では、**Society 5.0** を「デジタル確信（DX）と多様な人々の想像力・創造力の融合によって価値創造と課題解決を図り、自ら創造していく社会（創造社会）」と定義しました。

Q4. 建設 DX により解決が期待できる課題は？

A. ①業務の非効率性 ②ノウハウの属人化 ③人手不足

①業務の非効率性は、3D データを共有することで、情報共有が容易になり

【速やかな合意形成 / 作業の確実性向上 / 作業の効率性向上】が期待されます。ゼネコンなどの営業においては、CRM や SFA などのシステムを導入することで、営業業務の効率化が期待できます。

②ノウハウの属人化

ベテラン技術者がどのような情報をもとにどのように判断したのか学ぶことが可能です。

③人手不足

遠隔地から施工状況などの確認を行ったり重機の遠隔操作により掘削や運搬などの作業を実施することで、現場の人員削減が可能となります。

Q5. 建設 DX で活用される技術とは？

A. ①クラウド ②IoT ③5G

①建設現場と事務所でリアルタイムに工事状況を共有できます。システムの維持や保守点検はクラウドのベンダーが行うため、コスト削減の効果も期待できます。

②IoT は「モノのインターネット」と訳され、PC 端末や重機など様々なものをインターネットに接続するものです。建設機械の遠隔操作や危険エリアのセンサー監視などに IoT を活用する取組が行われています。

③5G（第 5 世代移動通信システム）は次世代の通信規格です。4G と比較すると【より高速である / 遅延が少ない / 同時に大量の接続が可能】という特徴があり、これまでより多くの情報をより速く通信できるため生産ラインやレイアウトの最適化を実現できます。機械に代行させる作業が増えるため、一層の業務効率化を図れます。